

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都荒川区南千住8 - 2 - 1
園名	荒川区立南千住第二幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

本園の地域及び園庭は自然が充実し、植栽も豊かである。一方で園児の立ち入らない場所や使用していない箇所がある。工夫を図り、より一層自然への興味関心を高めたい。

2. 活動スケジュール

1学期	夏野菜の栽培を行う。
10月	散歩や遠足で秋の自然を教師や友達と見たり、探したり、自然物を採取したりし、共通体験を積み重ね、興味関心を高められるようにする。
10月～12月	各学級で植物や自然物を探究する活動を行う。
1月	栽培物を食べる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】

図鑑・タブレット端末・紙・鉛筆

【環境の構成】

- ・少人数のグループごとに集まり、幼児が調べたことやアイデアを出しやすくする。
- ・夏野菜の栽培経験を活かし、幼児自ら調べられるよう、室内には図鑑を用意しておく。また、絵本の部屋にも探しにいけるようにする。
- ・教師とともにタブレット端末を使って調べる経験ができるようにする。

4. 探究活動の実践

< 活動の内容 >

年長組「ふゆやさいをそだてよう」

- ・グループごとに育てたい野菜や知っている野菜の栽培時期や栽培方法等を調べ、育てる野菜を出し合う。
- ・学級全体で野菜を決定し、栽培する。
- ・栽培したものを食べる。

< 活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

10月

- ・当初は夏野菜の経験から、夏に栽培した野菜名が出されていたが、当初から「冬の野菜」を理解し夏野菜の際に図鑑で調べた経験を思い出し図鑑を取り出し調べ始めた幼児が冬の野菜名を出し始めると、「冬野菜は夏野菜とは違うもので、冬野菜を探す」という目的の共有が浸透していった様子が見られた。図鑑を眺めるうちに、いろいろな野菜があることに気が付いていった。
- ・「夏に育てた野菜ではない野菜の図鑑を探すとよい」ということに気づき、目的意識をもって本を探す様子が見られた。
- ・図鑑を見て、色から「これは冬に育つ野菜」という野菜を推測する幼児がいた。
- ・図鑑を見て、「ブロッコリーって冬って書いてある」と文字を読む幼児がいた。また、「ブロッコリー栄養たっぷりじゃん。本見て見たら、冬野菜は栄養たっぷりなんだって。」と本から得た知識を友達に伝える幼児がいた。
- ・調べたことを記録するために、野菜の絵や文字で記録を始めた。字を書こうとひらがな表をそばに置き、記録する幼児がいた。
- ・図鑑には栽培時期や栽培方法が載っていないものもあったため、「調べたい野菜があったら先生のところに来てね」とタブレット端末で検索することにした。タブレット端末で検索をすすめるうちに、図鑑は単品で掲載されていることが多いが、タブレット端末では多種が一挙に画面に現れたため、同じ野菜でも様々な種類があることに気付いた。(例:「キャベツ」は図鑑に1種類の掲載であったが、タブレット端末で検索をすると検索画面に芽キャベツや赤キャベツの写真が現れた。)また検索結果から、ブロッコリーとカリフラワーは同じ仲間であることを伝え、幼児からは「えーっ!」と驚きの声が聞かれた。
- ・野菜には仲間がある、ということが分かり、仲間で栽培することになった。(キャベツの仲間・ブロッコリーの仲間 等)



1月

- ・カブや大根が成長してきた。毎日水やりをしながら、「大きくなったね」「もうすぐ食べられるね」と言っていた。
- ・カブと大根の収穫をする。なかなか抜けない様子で踏ん張って抜く。「こんなに大きかったよ」と嬉しそうに担任に報告する。
- ・根がよく張っていて、根に着いた土を落とす。振って落とす子もいれば、丁寧に手で土を取り去っていく子もいる。
- ・カブを味噌汁にして食べる。「あまい」「おいしい」とのこと。
- ・カブと大根を塩もみにして食べる。「カブは甘いけど、だいこんは苦い」と味の違いに気が付いていた。



5 . 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

- ・ 幼児は経験とつなげて課題を理解しようとする。提示した課題について理解するためには、教師とのやりとりの中で理解の違いに気付いたり、理解した幼児の様子に触れたりすることが必要である。
- ・ タブレット端末による検索は、図鑑と比べて多種が一挙に現れることから、野菜には仲間があるという新たな気づきへとつながった。
- ・ 残念ながら、芽キャベツの種や苗が見つからなかったり、赤キャベツとキャベツが鳥に食べられてしまったりして思うように育たなかった。育てたカブと大根には興味が沸き、味の違いに気が付いていた。苦手な野菜も、自分たちで育て、生長を見守ることで関心や食べてみようとする意欲につながる。